

譜牒餘錄後編

交代寄合

四

壹

内閣文庫		
番號	和	16322
冊數	101 (65)	
函號	157	127

内閣文庫			
架	冊	號	類
五七	三	一〇三三	和書



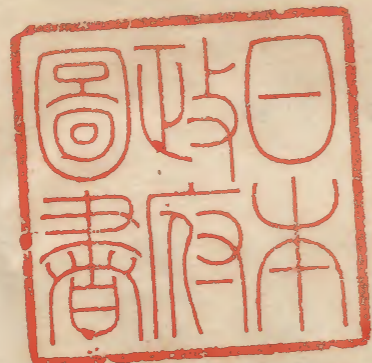
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





交代奇合之三

譜牒餘源後編卷中

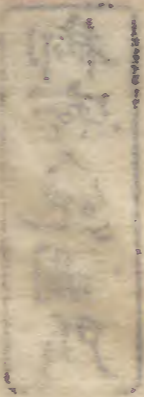
機庫

御實紀調所



文力者命之三

壽長保新成龜...



覺

山名主殿

Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.



覺

一 祖父禪高後中務太輔豐國

一 母管領細川高國女

一 天正一始同晴國鳥取一城を禪

高兄山名源十所居城

同國若井城

中表

外族

乃城

子孫

三退但列に在在不在本意相違年
 病死は比同茲禪之憤と合家来
 と集并山中席之物と相違に多死
 又黄唐運の豊前一族と誅戮終
 又同列の古護よは成鳥取は居城
 一 此は候 亦同列に在在不在一
 一 禪之怒井城に在在不在一毛利家
 一 此は候 亦同列に在在不在一
 一 押奇中より一急よ四座に及禪之甲

曹と不着長刀に持け出向奇
 手眼相と抛懸急よ城内に出入
 一 禪之怒お防所的人と切伏中及
 奇手候よ不入城内及取亡其
 内城より家来大池迄殺十人退
 付は比具初と中同とて法疆の各
 高く取州法山禪之憤并一坐
 備之候よ為之語中比以外少くの備
 一 殺度四座より大書付不中比

一 禪高代、同幡守護、鳥取居城
比山廻に家来森下、中村大炊、
中志禪、子勝七、神代丸立禪、子氏
尚と階、先利、政、運、公、山、依、之、禪、子、氏
志、河、大、同、秀、奇、通、大、同、被、美
鳥取、城、唐、城、の、後、終、不、致、本
領、之、安、塔、小、身、と、成、中、山
一 権現極大同時代、河上洛、之、初、期
波、氏、清、館、之、以、為、成、渡、河、禪、子、氏

一 比、山、以、比、還、河、禪、子、氏
河、禪、之、趣、之、氏、衛、之、慇、懃、之、換、移
比、山、後、向、後、其、用、之、比、山、斯、波、之、足
利、乃、同、苗、山、名、之、新、田、一、族、之、
之、慇、懃、之、換、移、不、之、在、之、也
蒙、上、之、山
一 権現様筑紫陣、河、禪、之、名
山、名、之、以、新、田、義、重、二、男、河、夏、与、義
範、為、山、名、之、祖、自、河、一、族、相、之、河

一姓一好有... 乃... 河... 公... 之...
紋射禪言... 河... 渡... 故...
特規極... 台... 徒... 院... 極... 河... 二... 代... 共... 別...
... 被... 加... 河... 不... 使... 以... 國... 系... 陣... 之... 時... 上... 板... 領...
... 常... 飛... 井... 氏... 義... 寺... 八... 本... 在... 凡... 是... 太...
... 田... 垣... 監... 拘... 木... 組... 之... 所... 有... 河... 徒... 故... 也...
... 理... 運... 之... 度... 但... 了... 玉... 竹... 田... 井... 村... 凡... 之... 俗...
... 城... 語... 九... 之... 中... 各... 為... 上... 意... 是... 重... 了...
... 符... 之... 後... 同... 七... 味... 一... 致... 投... 成... 仕... 也...

一 設府河殿... 各... 年... 始... 以... 礼... 中... 上... 也...
... 規... 式... 有... 官... 之... 面... 以... 水... 之... 日... 野... 唯... 公...
... 水... 無... 漸... 一... 秋... 山... 各... 禪... 言... 次... 上... 板... 土... 波... 亦... 以...
... 禮... 中... 上... 以... 亦... 定... 之... 刻... 公... 家... 凡... 同... 義...
... 禪... 言... 之... 河... 通... 上... 以... 為... 在... 日... 野...
... 飛... 鳥... 井... 之... 二... 方... 冷... 泉... 土... 河... 門... 舟... 橋...
... 水... 無... 漸... 禪... 言... 之... 是... 符... 之... 案... 之... 片...
... 亦... 以... 之... 河... 座... 以... 常... 也... 河... 為... 之... 也...
... 亦... 以... 之... 河... 座... 以... 常... 也... 河... 為... 之... 也...
... 亦... 以... 之... 河... 座... 以... 常... 也... 河... 為... 之... 也...

山名志准三位中將の御成
付、白雲派宗持也。此は、
一、慶長十九年四月、池田海後守福指
河部一、河部進、其直河部中、上
杉部、河部進、其直河部中、上
海後守成、其直河部中、上
史本多上、其直河部中、上
願禪、其直河部中、上
辰上及、其直河部中、上

思、其直河部中、上
今日、其直河部中、上
思、其直河部中、上
成、其直河部中、上
以、其直河部中、上
一、大坂陣、其直河部中、上
女、其直河部中、上
女、其直河部中、上
中、其直河部中、上

一 河二付九所凡有迹之は為 百遺也
 吐四相伴等は為 河能也
 一 禪高徒也山名伊豫寺秀形也
 奉公は山同輩之人は但諸大夫則之
 冬 内は山慶山名准之位は級異
 他家は名を山名伊豫寺之は融昇
 殿於河邊河形中上山
 一 親平右衛門後茂禪高は山河不
 便之故

一 後現禪は山平公之後平頼之殿小
 田原河陣は初は為 百也
 台徳院棟は被為 百遺は奥陣同
 原田はははは後平徳高西那は内
 一千石河原ははは坂河陣はははは
 ははは後
 台徳院棟 河邊はは平右衛門殿
 河邊代河原はは思合はは 河邊
 は河邊河奉公のはは 河邊能及

安慶山平忠孝 尚書 勅 志 故 難 於
勤 以 請 不 中 上 高 家 並 又 以 員 是
四 年 上 任 山

- 一 又 拾 宗 年 以 前 拙 志 切 少 之 時 勢
台 使 院 極 大 斷 院 極 大 斷 院 是
任 山 之 後 令 衆 長 門 書 茂 切 少
為 始 而 漸 因 是 以 故 山 長 門 書 茂
於 志 之 先 在 書 法 以 任 山
一 又 十 年 以 前 親 平 志 書 武 志

任 山 時 伯 父 大 次 右 京 兼 拙 者 承 業
之 志 之 人 酒 井 故 雅 示 以 殿 宅 也 以 右
寄 山 是 中 何 也 四 列 座 少 下 上 志 乃
類 也 任 山 同 時 傳 授 故 紙 中 古 武
古 任 山 也 任 山 是 一 門 中 上 志
承 上 任 山 雅 示 以 殿 宅 之 被 任 山 家
督 任 山 任 山 任 山 任 山 任 山 任 山
任 山 任 山 任 山 任 山 任 山 任 山
任 山 任 山 任 山 任 山 任 山 任 山

濟中丸西丸在土佐安先皇為四乳
中上以上

二月廿二日

山名之殿 五

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

覺

一 後現極濟波山名以新田義重

二男侍夏吉義範為山名之祖自

濟一族相濟一姓好有為當

隔公思有分以射禪高濟波

後現極台使院極濟二代有別

以加不使早

一 後現極太同之時代濟上洛之御

波二松館以為成 濟禪高以

供仕山江控 還所禪高 山江控
之執民衛之慇懃以挨拶仕之儀
其用之仕山斯波之足利乃同苗山
名、新田之一族向後慇懃之挨拶
不了有之、有在蒙 上意山

一 園原陣之時上校派常 龜井氏
務寺八木庄凡出 吉田恒監物出組
宜 伴竹山供仕山所行運之儀
但馬園竹田村九島湯城之儀

取申方為 上意仕重中 竹為
以慶次同國七味一取取取仕仕之
後後府兼所高地相勤山 高上之
百人挨拶仕重山

一 後府所殿之年始之山江
上以親武有官之 面之山江高
日野唯公水出濃一舟山名禪高
次小上校土波木山江 上以山江
之別公家所同高之 禪高

山名之正名

之方冷泉

之方冷泉

之方冷泉

山名之准之信

之方冷泉

之方冷泉

之方冷泉

之方冷泉

積塊柳

積塊柳

一慶長十九年四月池田海後守脇指

之方冷泉

之方冷泉

之方冷泉

之方冷泉

之方冷泉

之方冷泉

一の如互被思百一為 所正新
此所重一處今日一首尾神妙の
之 所感思百一表志よと比と
感状一て成下山は禪高成各
別坂具通よ一と名乃重一と名種
草叢 上志山

一 大坂陣乃時為 上志本多上
野女十四尺志進クは 百重山为上
桂女入殺二浦監物禪高にお副儀

一 の中名は為 作対山名旗
紋代二二川は時禪高旗紋上は
二川下は山乃字と対申山
権現極所設は二山を唱惠二
川はのはと名因茲旗紋相改二
川は山乃字付申山所禪證之後
所二代共よ心尺右進クは為 百重
心影四相伴等と為 作対山
一 台徳院極設府所殿は同心儀

一 并禪高定... 宗一... 爲
即... 爲... 宗... 上... 爲
其禪... 小... 故... 達... 中... 法... 師... 上... 爲
一 台德院極濟臘江 即... 山... 時... 禪... 爲
四... 伴... 以... 上... 爲... 百... 山... 爲... 乃... 戴... 仕
以... 別... 山... 爲... 指... 上... 中... 所... 上... 爲... 經... 一
山... 之... 山... 爲... 大... 爲... 禪... 邊... 上... 山... 爲... 其
是... 那... 可... 爲... 乃... 上... 爲... 上... 爲... 級... 爲
上... 中... 山... 爲... 的... 園... 田... 爲... 那... 少... 山... 爲... 妙... 爲

一 并禪高定... 宗一... 爲
後... 買... 加... 乃... 上... 爲... 今... 日... 爲... 首... 尾... 爲
何... 爲... 山... 換... 移... 上... 爲... 物... 清... 上... 爲... 妙... 爲
一 台德院極濟臘江 即... 山... 時... 禪... 爲
茶... 上... 爲... 山... 爲... 禪... 爲... 濟... 爲... 未... 爲
殊... 仁... 老... 眼... 故... 爲... 爲... 上... 爲... 中... 爲... 妙... 爲
台... 使... 院... 極... 爲... 濟... 爲... 山... 爲... 有... 爲... 禪... 爲
上... 爲... 上... 爲... 百... 連... 山... 爲... 禪... 爲... 爲... 買... 加... 爲... 仕
合... 存... 存... 爲... 爲... 上... 爲... 其... 後... 山... 爲... 爲... 不... 爲... 仕... 爲

一 親平右進成輝より被賜所不使

と有るは、成輝の遺言に、成輝の遺言に

持現極口所年公之成輝の遺言に

小田原陣力細長守 石田

台使院極口守 石田の陣圖

原河成は其後中絶と為飾致し

内一二石河願は成輝の家督子

右衛門と云ふ所なり是れ二十石

石河成太極成は、以下並に成

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

成輝の遺言に、成輝の遺言に

並に御所見御奉公仕出

八月廿一日

山名主殿

五

生駒主殿

金... 其... 州...

五

急度中入... 秋... 被取... 波阜... 井... 中... 之... 新... 以

丹之波路山乃可山公
行迹之山台乃志待
与一清下之

八月廿五日 家康新判

如早 友堂山後書友

友辰 本回同情書友

友生 弱瀬之書友

友山 山掃書友

波阜之味早之被
宗前涉手物何在
菴中乃之山納言
先中山道之押上之
山中付山我亦上自
付口押之山山流眼
三瓦山お談山解
山山山山山山山山山

亦父子心也
以侍
之

八月廿七日
家康所判

後堂

恩田

田中

神保

秋山
松倉
本田
生駒
加藤

不又多少... 竹中

...

...

...

...

...

...

...

覚

竹中遠江守 竹中半兵衛 竹中興長 竹中重治 竹中重長 竹中重長

重長 重長 重長

...

竹中元之助

竹中重高

覺

竹中遠江守

常善

竹中半兵衛

重治

竹中丹後守

重門

竹中越中守

重常

竹中元京

重高

竹中主殿

重長

重高之書状之披見以地之小原
首尾各相遠忠許之辰威悦之
今日之旨至小田原之馬之急速之

後下為总陣之跡之元之入續後
新要之止之得之

九月廿日 冲字四直判

加藤元忠尉及

竹中丹後守及

加藤元衛門尉竹中丹後守依為
縁者陣所一所 在陣仕候故御一
紙被成下候

右之石田治部少謀叛之的定祖丹後守

忠信中之付之從

權現標被成下 冲書之字

関ヶ原以合戦被成奉其後小西孫三郎

与百捕指之付之從

權現標被成下 冲書之寫

小西孫三郎百捕指之与入替候候

总之入替候候

九月十九日 御宇 河原平

竹中丹波守友

右園ヶ原代々領知仕由干時付不四利
運之為以合我場之由 上之志也
之米千石許願仕由茶孫傳子帯之先
忠之刀則之千重之小今取付仕由丹後
守越中守父子在入坂兩度以陣之節
乞付奉仕由

從 權現様被成下 御書之字

乾之土地普清豆秋之昔勞感悦由
由小被羽折也之也

八月廿六日 河原平

竹中丹波守之

從 秀忠様被成下 御書之字

乾亨及其許夢得辛勞察思合
以於仗志この中へ是

二月廿五日 佛思下

竹中丹後守より

右兩通之 佛書志 從本曾山以被
也この節 以載は山中代の中へ佛の
從 秀忠極被成下 佛書之寫

為采暮之役料帛二百恒被
贈越々事所認之之之於大
久保お捕るこの中へ地

十二月廿五日 佛書判

竹中丹後守より

貞享元年子二月十日 竹中元之助

童直 五

乾亨... 五

...

...

...

...

最上刑部

被上田部

目錄

一 上校景勝送之之別殿上出羽守

少將義光旗下口被 作有比家兼以

成下河書事

一 河人殺書堅目錄在之 實文年中

四老中以評見之 比兼

權現極 台徳院極河書附後足利傳

一 來比鬼切丸之太刀 比老中令振信

一 於私宅懸河國中比事

一景勝邊國之法將相語以辭被
成下所書事

一竄上波河古以所名宗家之河一字
御判拘被成下事

一控現極古書羽吉義光以入魂仕
後四海是也控由波河古方也

台徒院極所自筆之河書以
成下事

一野列小山古以古陣之別被

成下 河書事

一古羽吉義光旗下之亂靈社記信
文為首乃上以事

一義光景勝之合戰之別景勝軍
羽法率討捕中以事

一國ヶ原河陣付之被 成下河書事

一濃列波阜乃城以宗家以控
被 成下河書事

一國ヶ原殿小

權現標大坂也
移山符也

成下 所書事

一 從織田信長書羽吉義光以下下道

以快炮當山符也

權現標所腹卷并夜願也榮持願

成下 所書事

一 信長書羽吉義光所馬進山符也

取次被托山符也

權現標所書事山符也山符也

一 大岡山出羽吉義光使志若山符也

山

權現標被成下 所書事

一 出羽吉義光病書山符也

權現標山使志若山符被成下

所書事

一 書羽吉義光國ヶ原所陣山利

運山符以快渡河山符也

權現標山 所目見山符也 山威山符

正宗之口脇指所事

一 武羽吉義光率兵依之 後河守也

以下所列皆國仕也

一 最上後河守侍從家親經國之

口礼也 上事 兼出羽吉義光遺

一 物事

一 大坂 河守了村也 最上後河守家

親江戶也 自之也 河守也 降陳也

後 蕪山之口脇指所事

一 權現極冬列忌 湯田邊 海の列

後河守家親心使志也 守也 守也

守也 成下 河書事 附大坂也

陣中為 河機始伺也 度使志

守也 上事

一 慶長二十年六月朔日 江戶大坂

震後河守也 口脇進也 上事

一 元和二年 後河守家親死去

一 上事

一 後河守源武忠父源又解家信等
 一 お遠江 源又解家信等
 一 之 後河守源武忠父源又解家信等
 一 後河守源武忠父源又解家信等
 一 附後河守源武忠父源又解家信等
 一 福徳丸太史四段易々別被屋
 一 安として取圍方被 源又解家信等
 一 家信お菊中事

一 源又解十又歳之 源又解家信等
 一 合はおし心裁許しは 源又解家信等
 一 元和八年 源又解十七歳之 源又解家信等
 一 知事羽國被下之 源又解家信等
 一 實永八年 源又解廿六歳之 源又解家信等
 一 源又解源武忠父源又解家信等
 一 源又解源武忠父源又解家信等
 一 源又解源武忠父源又解家信等

取立一町被控辰巳年中江伊後
今以六千石評成は事

一 大猷院極白私六歳より経目之免
中上之事

六月日

最上刑部

一 慶長八年庚子上秋景勝送急
付白 四馬之別私曾祖父最上
羽守少将源義光會津表赤沢
以先自は以前旗下に以 伊賀人

一 越後侍從堀久太郎村上園坊
海江伯春与南野信忠与戸沢
又御六卿兵庫秋田後太郎
堂源七卿赤尾清孫次卿
孫太郎龍次刑部岩屋右之丞丹
加保兵庫右之丞中義光郎内
小國表与入致と相待會津
出陣与七月七日被成下
所書之字

急度中入山會津者出陣、後
來廿一日未定山、之者、危五國、
有山未陣、山於、之者、危五國、
之小國、之、人、危、之、會、津、
入山、行、津、金、修、理、中、川、市、
中、連、山、之、津、之、

七月七日 家康御判

右將侍從後

伊達陸奥、政宗、信、使、以、之、押、
所、付、山、右、旗、下、山、人、殺、書、登、目、錄、
以、書、之、寫、

- 一番 南部信濃守 八千人
- 二番 戸沢九郎次郎 三千五百人 本堂源七郎 四百人
- 六卿之庫次 三百人
- 三番 秋田左衛門 三千六百五十人 赤尾清孫次郎 五百人
- 仁坂保之庫次 百八十人 瀧沢刑部 百十人
- 内越孫太尉 六十人 岩屋右衛門 四十人

口番歳上修理奉吏六千五百人

又番越後侍従 六千人 村上国守等 千五百人

海口伯耆等 千五百人

都合二万三千六百五拾人

慶長六年八月廿四日 家康公御朱下

是十國ヶ系御定年景勝自會津来

天和移上申山時より山度山山目滿

天和二年戊十二月燒失仕山保實文

年中酒井雅樂殿稻葉義清殿

久世大和守殿土屋但子守殿土井能

定守殿令抄信於和宅山并見山

則山書山稻葉義清先寫進山

山山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山山

海之傳記元年燒失仕山鬼切丸
ハ小今而持仕山

一景勝邊國之德相語山刻古羽也
義先方之致一味之由仗志之
若越内忘傳弟之使志在越山
所時付捕之

權現様也則便進中上所日會漢并
打入致用意相持在立山刻景勝
陳謝之越山山城也豐光古也

返報致之條乃上山竹也七月廿之

日以 成下御書候

急交中入山治部少輔刑部少輔等
是方之福狀也也付之雜記中由桑山
備之儀先達之山官用山長付方之
候子中入山太政官之儀也也重山手
付方之山而山竹之書候之書候
見之山山山山

七月廿日 家康御判

古明付後

石 沛書之趣何上名使志路
主來以斗策所以通音以
一 文錄之甲午歲和祖又後河書侍
從十二歲 乃之 中 別 沛 小 性
乃之 沛 大 名 性 初
心 藏 之 則 沛 名 宗 沛 家

沛上字沛判物致頂戴之家
親之 乃 宗 沛 之 家 親 十 五 歲
沛 沛 沛 沛 沛 沛 沛 沛 沛 沛

沛判物之家

家

文殊之

八月廿日家席所判

竊上元馬之物

竊上元馬之物
上中符石

台徒院極所自筆

以所書之字

一等之譜
以生珍重
入魂之中
有元之

山一入之文以種祝忌計事之也

十月廿日

秀忠判

山形書羽書友

今山

右 河自筆分明 佳藏亦以
至中 河自見之 辭被 作少候
古久 謀者 志建 之 所 每夜 四起 中

四相伴之 与 北越 四正 厚 生

被中 上 山 表 新 之 高 秋 浦 深 寒 也

河書 九 并 右 河 自 筆 河 自 見 也

中山

慶長 又 庚子 歲 野 刈 小 山 山 田 出 陣

之 別 上 方 蜂 記 伏 見 是 城 之 也

中 來 符 也

權現 極 河 上 洛 以 往 山 刈 七 月 廿 九 日 被

成 下 河 書 山 河 書 一 字

急度中入山上方有河坑一同
白洋楸之山中朱符之圖會洋先之
上洛山侯中納之若並以之系彼表
偏之溪之相談之山竹記後者
時比之之譯之

七月廿九日 家康御判

羽信從反

一 山前上方峰起符之羽羽小玉表以
相集山麓下之坑中居城之山
案内門山之中也羽羽之願知令
屋之山亦丹桂之熱之生之山家
朱若並同不在在相屋之城之
山以之表之山出羽之山家朱相
深若亦之構以魚之坑中為並之
山羽之居城山形山之之趣若朱山
符之山亦之山以取以相山山軍之一

人之通一中爲發以上方蜂記
符之居城望園之乃以忠儀也
以存以在通以之各別之儀也
系於之亦乃之記語文也之及之
中乃以符之彼昔不之爲重以中
南初信法寺戶沃九部五部赤尾
洋孫改解六之去庫本堂孫七部
院沃刑部内越孫太部秋回夏太
部若及石之清丹加保去庫以亦之

倉中と致誓詞の儀
右靈社記語文系書
敬白天野村起語文系書之事

一 上様中納言様
發事

一 貴不我亦
可成之也又家中
無夜之中成候合
直之中乃不審

少お遊二の中一快事

心條之私曲係多々々々々々々々
起請文之御符一可召蒙志也
神文如貴

八月十二日

南波信濃守

八月十八日

戸澤九郎守

八月十九日

本堂深七郎

寂工右将守殿

右誓詞之内南波戸次本堂起請
文にて不持はし自余々々々々々々
所の奉極月燒失はし實文中
先中 諸書以洋元之所志々物之洞
大孤洲同中々々

一 右々先中居城に引退り甄注
是中上比處古羽古義光手瑞千
系跡難兵部合志万二千余波
川率景勝之形長直江山城守

為大將相我、主前軍將討捕、
進中上山

一 九月十二日同共、日同廿九日長谷

一 堂名三度、合我以上、泉之水、

井、使中松本、查之物、知

一 百余人討取中

一 九月十七日上山、為穂村、道、酒、元

一 平、回石、身、書、子、初、一、二百余人

一 討捕中

一 十月朔日長谷堂、陣、辻、長

一 井、境、中、追、至、志、田、修、理、河、村

一 去、務、女、人、生、捕、水、系、為、陸、上、初、子

一 余、人、討、取、中

一 白、石、河、江、以、長、湯、家、並、而

一 五、七、千、又、百、人、討、取、中

一 庄、内、土、浦、之、城、攻、取、之、百、余、人

一 討、取、中

一 仙、道、柳、田、之、城、攻、落、男、女、百

一人按切し過山
右合戦より羽吉義光家来付
死し没進

江口久高 同志化婿

阪田播磨 加茂源左衛門 新園徳前

岩瀬和泉 弟折長女 大角久盛

同青丸部 日野八郎 細屋清盛

同友太郎 堀越義人 堀越時

林徳政助 大沼元盛

右物取と給子路難之六百二拾之

人し討ちし

嵐前奥列白石合戦より別陣に

陸奥寺政宗不利し御政宗お母

お甥はてし友お羽吉方にお坊と幸

以て得利候し長谷堂合戦し

別お羽吉中走しし度獲りし

倉中大路左城し門也中し討

り子路斗し心合戦し柳しし衆

垂江山城古對陣之内加勢河
於之乃越之奉對 上極之為
所忠儀且又一類のよし
中中垂山付則後政宗伊達上北女
石川赤平より決地百廿挺騎馬百六
十騎足輕千人長谷堂に迫来相
下備中より度政宗去之拾宗人討死
中景勝志士約あり部合二千七百宗
羽鳥より討捕中より討死は江口より

烟屋に城より所座山孫同又高
中より十ヶ年己前迄種村古傳者組
与力は其のお果中より

一関ヶ系所陣より四橋子附より八月廿八
日と成下所書山

所書より写

急度中より入山重なる長徳列伝並山
改阜後巻治部少輔清海より外より
人荒上戸川端より并由より所書

八月廿八日 家康判
討捕し上存一人宛書付
山口取造の書二言中落城後
五月廿五日時寫す一のらふ安
とく地

出羽侍従殿

一 波阜の城所棄取と任は初八日
七日に成下御書は

御書一写

急度中入の云廿二日午に別波阜の
城所崩中納云兄弟一人も不淺按切
中使波進の条書付有持を以て政宗の
未の我亦父子と出陣中はる万事
元治の与保有一の終は妻細宗意可
中はる不能具の之と譯す

八月廿七日 家康御判

出羽付従反

一 園ヶ原御陣 以利運に任大坂

以移ら任比前 十月廿二日 与成下

御書に 御書に寫

二 三に敵退散し中お守りし来ま

りし京橋成敗の中付ひてま

故に以方し任は重示 汝又又甲符の
為の以公 寄し 与し 任し 入

十月廿二日 家康御判

出羽付従反

一 景勝と合戦し 別任信長公は
以補くし 胴の甲冑と帯し 出羽
御中の別任地玉甲乃 其向し

牛の筋金取れく初の中は
漢甲中不持仕は
權現極在 今上聞は腹巻一紙
再指百端云上之介
し成下 御書
御書一写
旧有さ大尊二指上指
被尊通た奥列

子多後山秋は
將又版卷一紙糸毛
至は山委曲部後音

二月十七日 家康御判

山形書羽書

一信長公の長十寸
自在に後了乃上列

權現極以迄之より以取次は往之後

大岡に取次は後と一層たのむ

權現極迄事年取の依く大岡

治世は肉長

権現極は成下 御書は

御書は字

出羽庄内は後付の富田方迄中紙

は通り別枝落中紙は處而の上意新

出羽別条は迄は書は付方はと如し凡

任方より中紙は為は一説彼書状

迄は先は目も度京取は秋子迄方の

使は剛府は家康と頼の上洛中紙

る迄一のり上の定 殿下不不取迄

又迄のりるら上公安は段花境目

聊尔は上は上は用は將又伴達は迄

骨肉は上は上は入魂はをく上は

伴達は上は上は上は上は上は

委細皮は上は上は上は上は

元月九日 嘉康判

山形市羽書友

店內之儀具系取入中上之儀具
と草紙上開中儀具系取入中上之儀具
多し之方へ成所書の先交富田方へ
返書は所為の返書と申す事なり
此等之儀具は取入中上之儀具に
似たり

人里へと書上之儀具系取入中上之儀具
の上儀具の中儀具の中儀具の中儀具
中上之儀具の中儀具の中儀具の中儀具
後書之儀具の中儀具の中儀具の中儀具

元月十七日 嘉康判

山形市羽書友

長殿下之儀具系取入中上之儀具

自計方之書狀指流以能之在肉以
符之本庄模感之能之与蓮
上聞聊以口別後之与作符之与
以之方不候子之可以公安之
中合以有不能詳以之之律之

方十七日 家康御判

山方出羽守友

今度由河以外記係与若上吉者
委由河守并大高治所為收
此以兼又在肉之能符多候殿下候
所書如以所之与作符一候以能
以候并中之能之并上候在少候
以本至同如之能之与方上候
候一連延以之与不若少之能以之
与以候内之能候以候又口は並行要
候以之与之能家康御判上以候

四思之方不大方以具外記以上相會
以行進之可中是方令省畧以爲之
得之

八月廿日 家康判

山形古將古友

四之支度舊上流以古收付事
以于方以上流之流殿下中上流

先以四之月之使以之
上之四之連則使
以自是四之積延不斜
慶不之
初度之方上旬必定
夏歲之方上旬必定
以越之方上旬必定
以越之方上旬必定

二月廿日 家康判

上方土附書反

追与小便一版毛之流成斗

牙墨再露之流之至海海

云长悦之云之栢国白梅之年路

四祝儀与中上以乾小乘以成故

四初座之乃为于方上流与上

四香所中波列上中一一版被祝

思百以国东以群遣不之至箱以於

在四身之上之流一途一之与作付條

可之云安之云安細皮使静了之

演説以云之律之

三月廿二日 家康御判

上方土附書反

花押与牙之之紙面以上以之

比男上洛中比与之表之候子委
園白極中上比而右 御朱平
上之流少也 安田別候比持之
辰最前殿下比安二係与中
至人偏執之由中上比以之
以之流少也 安田別候比持之
辰最前殿下比安二係与中
至人偏執之由中上比以之

能認筆比志之候

卯月六日 家康御判

山形方將書

從 台德院極被成下比

御書一写

為言位幡幅式百挺銀子又十枚并
思了了是也來飲思台比將又

不学之徒，乃養性行要，
多依後者，
為本

二月十一日 秀忠所判

宛上少将友

来報令披閱，
延引符与被着，
改由速志，
以念山台早之，
以度普，
以新秋，
以海

本重... 行部後者... 以海

六月廿八日 秀忠所判

宛上少将友

不学之徒，
後河寺令在江戶，
之十一先除，
修後者，
由深養生志，
來年來後，
以本

十一月十七日 津島平

最上御書より

不方之由云々元以能く養性行
要し酒井儀後書可し是

二月十二日 津島平

最上後河守より

乾々元書書信者越は志の帯刃
須察思右の程は上中合は也

二月十三日 津島平

最上侍候より

為書信見上書越使志の光天
時々昔書察思右し得又惟如目録

奉旨为上中舍也

六月廿一日 四里下

完上侍従より

一 計外 毎年 糸府 四時 端午 重

陽 歳 著 并 在 所 景 持 伊 馬 山 留

断 止 所 与 成 下 伊 内 書 六 十 通

糸 山 度 山 天 和 二 年 以 年 燒 失 仕 山

三 内 帛 子 山 頭 巾 亦 秋 上 仕 山 度

与 成 下 伊 書 山

伊 書 山 留

紙 子 取 巾 為 來 入 念 山 辰 似 思 山

行 本 多 倍 後 寺 可 中 山 也

月 日 糸 康 伊 山 判

完 上 少 將 反

一 本朝古病年符為使志乃上以所
成下 所書候

所書一写

銀子式百枚幅幅之百挺并金箔
束入志山所飲思旨之次不常共
好要之於本多信渡者一の中は

八月廿二日 家康四郎下

宿上少將友

一 今度國系所陣上以山揚利景務

降系仕比為山所渡河系府仕比列也

忠誠不斜也 思旨之十之老病

之許兵之山渡別也山所收以是

順本多信渡者上使上之山成下也

玄園^道宗持也先之孫也 城仕出

今度景勝之命物之備出此類也

信之上方山合物之山利運之候

備出將也民功也忠誠也扇也故也

比思石山より 河藤氏より

百奇お將古たし子と心丸と柱志

之趣上高氏形り難く事後後

肝に路一長流は 河代弟歳

斗心後中上心去比中村式部少輔

一氏肩輿より助とて

権現極の及 河目元心刻一氏忠

心執と柱且又塔長衣 心身

より心立決地より打是し以る時

長衣の忠 城河心願と柱心流

と為成しとけ度お羽と心忠情同

く使侍漸く病音深養了は心難

有上心の上心子けり心茶流

心兼心宗と心脇骨心初志河代

中と頂戴仕心處 河書は心流心

心は心越

台徳院極心 河目見仕是又河心

心あとの宗お心敬心と柱首尾能心

所成下時服浪子亦洋船仕致後

之國山

一慶長十九寅年正月廿八日

禮規極相列小由東山初座以經列

云十八日書羽子少將義光死在

之世國名波河寺花柳乃上宗

不孝以後之言上之列波河寺後

急度上國仕重示了了月之有以

所由得玉仕山

一慶長十九寅年十月九日祖父波河

古家親後府知事之所日

所目見以所射繼國之山也

中上以

銀五百枚 綿五百把

蠟燭千挺 所馬一疋 麻毛 最上波河寺侍從

真、了、太刀正恒 家親歎上

最上書羽子義光遺物

黃金千兩 所銀指 牙玉後

右紙上之在本女上野女友技藝之
一々之女子故若此則之竹多祖父後河
与家親後此戸所本丸出有之住
有被 所月与成下 所書候
所書之旨

今度毎書之候中付上之人名并
乃系元并所勤之衛所回之に所令
相談詰り入志一の付り行要の
也

所思平

慶長十九年十月廿日

宗上後河之

依之江之にお造陣中此
与お勤之に之所後河の上屋敷之
大手口之に之所後河の上屋敷之
此屋敷より之を此屋敷に
所本丸にお造一日と帰定不は

菊中山山陣已後為山慶美莊
山と川口之露所成は山下所持は山
一翌年慶長二十卯歲正月十二日
將現柳冬列忌河より過る山香物
占此別乃中是為所穢然同祖父後
河吉使志坂上紀伊守より志山山白
鳥二里より山守志是并嶽上漬蓼
一桶林上は山
自より山禮

嶽上後河守志
子籠鞋十尺上
所前山則紀伊守志
後河守使公府律儀は依り申
山公守より山守志
丸山守志より山守志
然是より山守志
被成下山山守志
山守志上紀伊守志

馬一足心念年玉元々清葉一
 桶心未快思自之字傳彼之
 底年未心安竹白江戸每与
 竹山交法子入念らお菊之海足
 以物也之上妙女一戸山是

山月二日 家康 江戸下

寂上溪河也

一 同六月朔日江戸大地震大郭破倒
 鞆安儀より江戸外港初
 江戸山處何方より後府江口
 江戸山處何方より後府江口
 江戸山處何方より後府江口
 別名山懐と記す
 江戸山處何方より後府江口
 江戸山處何方より後府江口
 江戸山處何方より後府江口
 江戸山處何方より後府江口

江戸書候

為野見也 廣斗一折柳二到來

祝忌之玉如粉土井大炊助了

七月十八日 秀忠判

山形後河守より

一 元和二年己未三月六日最上後河守

家親死去仕由

一同之己未八月三日忌又係又解家信

十三歳 家督被作付 继目之 所礼

上由

銀五百枚 綿廿把

桶箱千挺 沖馬足思

最上源之部家信献上

真ノ沖太刀守家

最上後河守遺物

沖刀長光 唐肩衝

後泉上肩衝と四岩付

石後河守跡式古羽國願知公打邊

家信は所付の先親が羽吉渡り
如仕重不相留り申付る所も四書
五項裁は山形に入部仕
一初難状上仕は所成下書
御書

初難到來飲先山形酒井梅後
高小伯春鳥

八月八日 家光判

宛上源之辨

一 源之所家信は福清乃妻太史
易に別居費は丸圍の申由ら
所付首尾能お菊中山源之辨十二
歳に於家乞伸ケる事申分仕
亦十七歳に河原井雅永の屋宅
にお下双方以穿鑿不可し

源子孫成山自余一人身志在源
又神守立中嶽之山 伊賀山處
家是大山形中乃上之只今山後
中上之山之來^後之事 殘黨之族家
中子在^一山後之山今不可仕也
疑斗山之為堤 爲山之大也
公儀家之設也 伊賀山之子孫
山後之志又深之辭 自今之山後
愈久愈重之志 伊賀山之子孫

源朝素及源田源正及山後
源山源文所源也 若山山山
家中之身志在^一山後 殘黨之根
之山後合^一山家之役 辭退仕村
之羽列山形^一之山後 飛山^一
是山內山後六日^一之山後 仕山
伊賀山家中已^一之山後 成山後
是山山元^一和八年八月十八日 將
國山知被^一山山後之 伊賀山

源又稱家來言只萬二千石
三千石云々者指六人言八千石
千石云々云々の六指一人八百石
百石云々云々の八百二十人
流渡はは為四技持方江列二列
下高云々萬石源又所被十重
源又稱六六歳云々實永八年
果中江流武都江列高八千石
只今源流はは云列土井大城

拙志家來江某福圖書修竹内記
本流凡幾云々者云々源又所被
廣小江井岸持部江合云々
上源渡江出羽吉後河云忠流江
云々源又所被云々源又所被
一の源成江思百云々源又所被
小江お米江云々不及是源事
江十又歳云々源成江云々
る家來云々源又所被

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

山崎助解由

丁卯 恩賜 抄

書付卷上覚

一 慶長又庚子年冬

権現極所代祖父山崎元子元淺

折列之田より同列着極へ示登

此作付の

一 同十九甲寅歳冬

台徒院極信 所又山崎甲斐守

浅家督お續大坂あ度し以陣

侍奉仕以甲斐守守山崎助次所

中旗本中車云和氣新在元和元
乙卯歲五月七日於大坂天王寺討
死仕山

一 元和之三丁巳歲秋

台德院極依 河邊甲斐守備同
列着極 備中國成將
留仕山同又己未年 海後玉之系
城在青 同十一甲中歲豫列
松山之城在青 同付相動中候

一 寬永十五 寅歲夏

大猷院極 河代甲斐守備中國成
將より肥後國天草守方石川加備
河邊仕不語 河付比之初和倉長
門吉川關而道具之内

石火矢 八挺

大筒 七挺

小筒 四挺

船 八艘

右ノ通洋願仕山ノ事ハ後天第
四圍為城附洋米二千石ハ
作付山ノ内城ノ米ハ内山米
洋願仕山ノ内城ノ米ハ内山米
上ノ願仕山ノ内城ノ米ハ内山米

一寛永十八年乙酉秋

大猷院極洋代甲斐守儀ハ後山
第ノ内山ノ内城ノ米ハ内山米
増洋願仕山ノ内城ノ米ハ内山米
作付山ノ内城ノ米ハ内山米

丸龜城取立山ノ別洋銀三百貫同
洋願仕山ノ内城ノ米ハ内山米

の上

右ノ通洋願仕山ノ事ハ後天第
四圍為城附洋米二千石ハ
作付山ノ内城ノ米ハ内山米
洋願仕山ノ内城ノ米ハ内山米
上ノ願仕山ノ内城ノ米ハ内山米

慶長五庚子歲七月
權現様從江戸會津表江
御出馬被遊候時分祖父山崎左馬允

儀攝州三田罷在候宮木丹波守更
上方騷動之様子御注進申上候付
下野国小山之從御陣館被下置候
御書之由承傳申候丹波守儀其節
何方罷在候茂不奉存候

子之儀
申候
上野
山日
今上
河
岩

承傳
申候
丹波
守儀
其節
何方
罷在
候茂
不奉
存候

上野
山日
今上
河
岩

山
日
今
上
河
岩

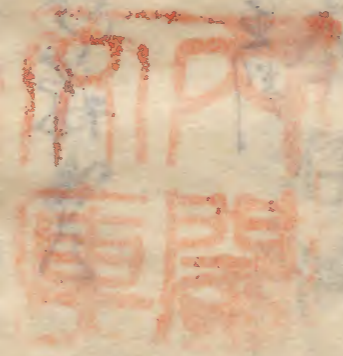
今
上
河
岩

御書御文言右之通御庄候寫

差上申候以上

四月三日

山崎勘解由



Faint handwritten text in blue ink, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

